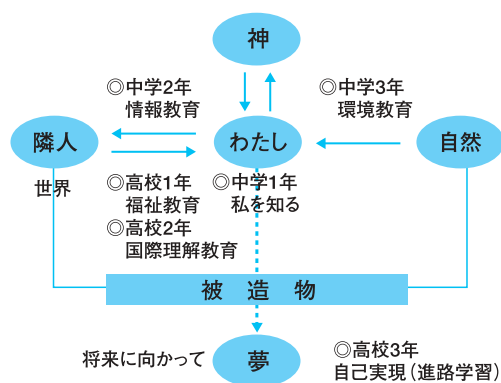


今年度から高等学校の生徒募集を停止し、中高6年の一貫教育が始まります。

そこにはどんな目標や思いがあるのか、深谷校長にお話を伺いました。

座右の銘は「至誠」、休日は教会学校の手伝いや球技観戦、ハイキングをして過ごす深谷先生は、岐阜大学大学院工学研究科出身。合理的で少し塩っ気のあるエンジニアの一面もあります。

金城学院はこれまで何度も、教育理念を再確認することで、困難といわれる時代を乗り越えてきました。ですから金城学院の中高一貫教育も、閉塞・混迷といわれるこの時代、もう一度、建学の精神を読み返し教育理念を再構築する作業から始められました。そしてそれは「You must have dignity in Christ.」という学院の普遍的理念をベースに、「神から与えられた賜物



を発見し、それを活かす生き方を自覚的に選択できる、21世紀社会に貢献する女性の育成」を目指すことに行き着きました。つまり正しい人間観を持った本当の意味で社会性のある人間を育てようということに集約されると思います。

中高一貫教育では「The quality of Lifeの向上を目指す」ことを目標に、「神に似せて創られたかけがえのない存在として自立し」、「聖書という確固たる倫理規範の上に立って自分を律することができ」、「連帯して人のために何ができるかを考えることができる」女性を育成します。ですから金城学院の中高一貫教育では、有名大学に何人合格したかだけを誇るのではなく、例えば海外で難民救済に関わったり社会貢献活動をするような卒業生が多く出ることを誇る、そんな教育を行っていきたいと思います。

そのため中学から基礎学力を向上させる

とともに、キリスト教の精神に基づいた本校独自の「総合的な学習」によって、生徒が自分自身の個性を確認し進路を見つける学習を進めます。例えば、生徒に自分の希望する未来予想図を描かせ、それに向かって歩むようにすることで学ぶ意味やその動機をつくり、自主的で持続的な学習を可能にさせたいと考えます。高校ではさらに具体的な進路そしてその実現へと応援していきます。全体的には進路学習と教科学習がキャッチボールしながら、中高6年間にわたって生徒の成長を手助けしていくといったイメージです。その過程で進路が変わるということもあるかもしれません。成長に従って進路選択の考え方もどんどん成長することを期待していますし、教職員も中高あげてアドバイスやサポートをしていきます。

そのような中高一貫教育によって、先ほど申しましたような「自立」し「自律」でき「連帯」しながら社会に貢献できる人間を金城学院から送り出すことは、私自身が描く未来予想図でもあります。どうぞご支援ご協力賜りますようお願い申し上げます。

金城学院中学校・高等学校

深谷昌一 校長



自立、自律、連帯をテーマに
生徒自身が描く未来予想図を実現します。